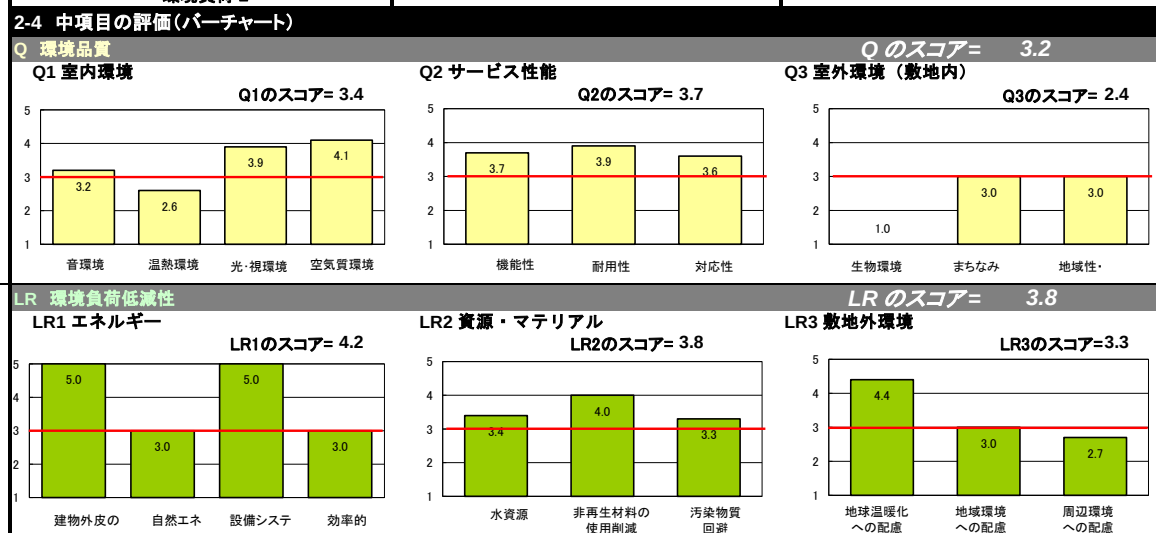
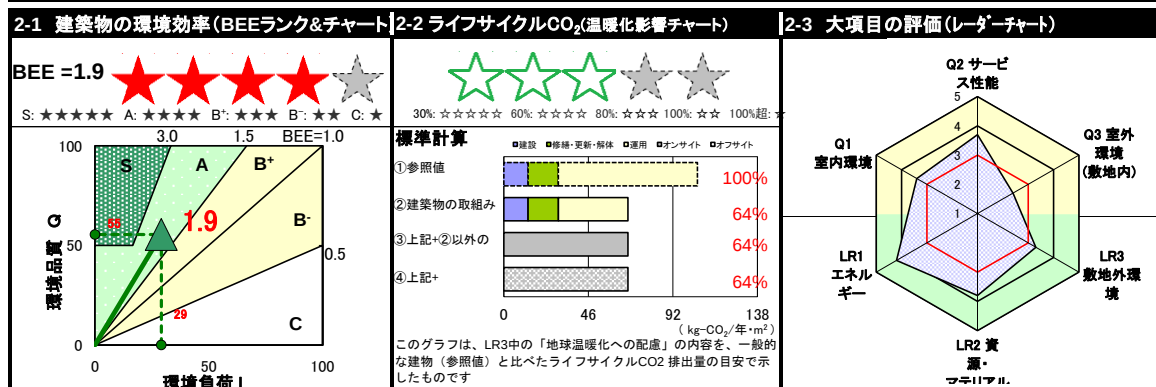


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	清須市役所 西館	階数	地上4階
建設地	愛知県清須市須ヶ口中央土野1238番外4華	構造	RC造
用途地域	第2種住居地域	平均居住人員	300 人
気候区分	6地域	年間使用時間	1,920 時間/年
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2026/3/1 予定	評価の実施日	2024/9/1
敷地面積	3,889 m ²	作成者	小林 兼治
建築面積	1,081 m ²	確認日	2024/9/2
延床面積	3,767 m ²	確認者	中井 勝巳



3 重点項目	
①地球温暖化への配慮 4.4	③敷地内の緑化 1.0 外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積) 0.0 % 建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積) 0.0 %
②資源の有効活用 3.8	④地域材の活用 1.0 <外装材に使用した地域性のある材料> なし <建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材> なし

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮

LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用

Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性

LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化

Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}}$ × 100

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}}$ × 100



CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
清須市役所 西館

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

欄に数値またはコメントを記入 ■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

スコアシート		実施設計段階								
配慮項目	独自基準	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体			
	重点項目		評価点	評価点	重み係数	評価点		評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質									3.2	
Q1 室内環境					0.40			-	3.4	
1 音環境			0.1	3.2	0.15	-	-	-	3.2	
1.1 室内騒音レベル			3.0	3.0	0.40		3.0	-		
1.2 遮音			0.4	3.0	0.40		-	-		
1 開口部遮音性能			-	3.0	0.60		3.0	-		
2 界壁遮音性能			-	3.0	0.40		3.0	-		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)			-	3.0	-		3.0	-		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)			-	3.0	-		3.0	-		
1.3 吸音		天井:岩綿吸音板、床:タイルカーペットを採用	-	4.0	0.20		3.0	-		
2 温熱環境			0.3	2.6	0.35	-	-	-	2.6	
2.1 室温制御			0.5	3.0	0.50	-	-	-		
1 室温			3.0	3.0	0.38		3.0	-		
2 外皮性能			3.0	3.0	0.25		3.0	-		
3 ゾーン別制御性			3.0	3.0	0.38		-	-		
2.2 湿度制御			3.0	1.0	0.20		3.0	-		
2.3 空調方式			3.0	3.0	0.30		3.0	-		
3 光・視環境			0.2	3.9	0.25	-	-	-	3.9	
3.1 屋光利用			0.3	3.0	0.30	-	-	-		
1 屋光率			3.0	3.0	0.60		3.0	-		
2 方位別開口			-	-	-		3.0	-		
3 屋光利用設備			3.0	3.0	0.40		3.0	-		
3.2 グレア対策			0.3	4.0	0.30	-	-	-		
1 屋光制御		庇(バルコニー)とブラインドを併用	5.0	4.0	1.00		3.0	-		
3.3 照度		執務室は750Lxを確保する設定をした	3.0	4.0	0.15		3.0	-		
3.4 照明制御		執務室で各エリア毎にリモコンスイッチと照度センサーを設けさらにタイマー制御をしている	3.0	5.0	0.25		3.0	-		
4 空気質環境			0.2	4.1	0.25	-	-	-	4.1	
4.1 発生源対策			0.5	5.0	0.50	-	-	-		
1 化学汚染物質		材料は全面的にF☆☆☆☆を使用	3.0	5.0	1.00		3.0	-		
4.2 換気			0.3	3.3	0.30	-	-	-		
1 換気量		居室は30m ³ /hとした。	3.0	4.0	0.33		3.0	-		
2 自然換気性能			3.0	3.0	0.33		3.0	-		
3 取り入れ外気への配慮			3.0	3.0	0.33		3.0	-		
4.3 運用管理			0.2	3.0	0.20	-	-	-		
1 CO ₂ の監視			3.0	1.0	0.50		-	-		
2 喫煙の制御		館内禁煙	3.0	5.0	0.50		-	-		
Q2 サービス性能				-	0.30		-	-	3.7	
1 機能性			0.4	3.7	0.40	-	-	-	3.7	
1.1 機能性・使いやすさ			0.4	3.3	0.40	-	-	-		
1 広さ・収納性		各階に複数の通信業者の回線が引き込まれている。また、OA機器用コンセント容量40VA/m ² を確保している。	3.0	3.0	0.33		3.0	-		
2 高度情報通信設備対応			3.0	4.0	0.33		3.0	-		
3 バリアフリー計画	独自		3.0	3.0	0.33		-	-		
1.2 心理性・快適性			0.3	4.6	0.30	-	-	-		
1 広さ感・景観 (天井高)		執務室の天井高2.8m	3.0	4.0	0.33		3.0	-		
2 リフレッシュスペース		1階に休憩が可能な食堂を計画	3.0	5.0	0.33		-	-		
3 内装計画		エントランスは木調をコンセプトに内観パースを作成して検討	3.0	5.0	0.33		-	-		
1.3 維持管理			0.3	3.5	0.30	-	-	-		
1 維持管理に配慮した設計		外壁の塗装はふっ素など高耐候性の仕上としている。	3.0	4.0	0.50		-	-		
2 維持管理用機能の確保			-	3.0	0.50		-	-		
2 耐用性・信頼性			0.3	3.9	0.31	-	-	-	3.9	
2.1 耐震・免震・制震・制振			0.4	4.6	0.48	-	-	-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		重要度係数1.5	3.0	5.0	0.80		-	-		
2 免震・制震・制振性能			3.0	3.0	0.20		-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数			0.3	2.7	0.33	-	-	-		
1 躯体材料の耐用年数		②	-	3.0	0.23		-	-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔			-	2.0	0.23		-	-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔			-	3.0	0.09		-	-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔			-	3.0	0.08		-	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔			-	3.0	0.15		-	-		
6 主要設備機器の更新必要間隔			-	3.0	0.23		-	-		
2.4 信頼性			0.1	4.2	0.19	-	-	-		
1 空調・換気設備		②	3.0	3.0	0.20		-	-		
2 給排水・衛生設備			3.0	5.0	0.20		-	-		
3 電気設備			3.0	4.0	0.20		-	-		
4 機械・配管支持方法			3.0	4.0	0.20		-	-		
5 通信・情報設備			3.0	5.0	0.20		-	-		
6 節水型器具、系統分け、緊急排水槽の設置、中水利用有り			3.0	5.0	0.20		-	-		
7 非常用発電機設置、防水版設置、本線・予備線の2回線受電となっている			3.0	4.0	0.20		-	-		
8 耐震クラスA			3.0	4.0	0.20		-	-		
9 ケーブルTVを設置			3.0	5.0	0.20		-	-		

3 対応性・更新性				0.2	3.6	0.29	-	-	-	3.6
3.1 空間のゆとり			②	0.3	4.6	0.31	-	-	-	
1	階高のゆとり	階高4.2m以上		-	5.0	0.60		3.0	-	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比=0.13		3.0	4.0	0.40		3.0	-	
3.2 荷重のゆとり				3.0	3.0	0.31		3.0	-	
3.3 設備の更新性				0.3	3.4	0.38	-	-	-	
1	空調配管の更新性			-	3.0	0.17		-	-	
2	給排水管の更新性			3.0	3.0	0.17		-	-	
3	電気配線の更新性			3.0	3.0	0.11		-	-	
4	通信配線の更新性	OAフロアと弱電専用ラックが各階要所に敷設している		3.0	5.0	0.11		-	-	
5	設備機器の更新性			3.0	3.0	0.22		-	-	
6	バックアップスペースの確保	屋根の一部は設備更新時を考慮し積載荷重割り増し	3.0	4.0	0.22		-	-		
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.30	-	-	-	2.4
1 生物環境の保全と創出				独自③	-	1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮				独自④	-	3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮					0.3	3.0	0.30	-	-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上				独自④	-	3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上					-	3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性						-	-	-	-	3.8
LR1 エネルギー						-	0.40	-	-	4.2
1 建物外皮の熱負荷抑制					BPI=0.54	3.0	5.0	0.30	-	5.0
2 自然エネルギー利用						3.0	3.0	0.20	-	3.0
3 設備システムの高効率化					BEI=0.5	3.0	5.0	0.30	-	5.0
4 効率的運用						0.2	3.0	0.20	-	3.0
集合住宅以外の評価						1.0	3.0	1.00	-	
4.1 モニタリング						3.0	-	-	-	
4.2 運用管理体制						3.0	3.0	1.00	-	
集合住宅の評価						-	-	-	-	
4.1 モニタリング						-	3.0	-	-	
4.2 運用管理体制						-	3.0	-	-	
LR2 資源・マテリアル						-	0.30	-	-	3.8
1 水資源保護						0.1	3.4	0.15	-	3.4
1.1 節水						3.0	4.0	0.40	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用						0.6	3.0	0.60	-	
1 雨水利用システム導入の有無						3.0	3.0	0.67	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無						3.0	3.0	0.33	-	
2 非再生性資源の使用量削減						0.6	4.0	0.63	-	4.0
2.1 材料使用量の削減				② 独自	PC梁を利用	-	3.0	0.07	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用					残置されている杭をビッド床沈下防止に利用	-	5.0	0.24	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用					高炉セメントB種 基礎・基礎梁	-	5.0	0.20	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用					再生クラッシャーラン 基礎下地業	3.0	3.0	0.20	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材						3.0	2.0	0.05	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み					独自	エントランス床に御影石を採用	3.0	4.0	0.24	-
3 汚染物質含有材料の使用回避						0.2	3.3	0.22	-	3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用						3.0	3.0	0.32	-	
3.2 フロン・ハロンの回避						0.6	3.5	0.68	-	
1 消火剤						-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)						-	4.0	0.50	-	
3 冷媒						3.0	3.0	0.50	-	
LR3 敷地外環境						-	0.30	-	-	3.3
1 地球温暖化への配慮				①	ライフサイクルCO2排出率64%	-	4.4	0.33	-	4.4
2 地域環境への配慮						0.3	3.0	0.33	-	3.0
2.1 大気汚染防止					燃焼機器無し	-	5.0	0.25	-	
2.2 温熱環境悪化の改善						-	2.0	0.50	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制						0.2	3.0	0.25	-	
1 雨水排水負荷低減				独自		-	3.0	0.25	-	
2 汚水処理負荷抑制						-	3.0	0.25	-	
3 交通負荷抑制				独自	十分な敷地乗入口と公用車と利用者駐車場の分離	-	5.0	0.25	-	
4 廃棄物処理負荷抑制						-	1.0	0.25	-	
3 周辺環境への配慮						0.3	2.7	0.33	-	2.7
3.1 騒音・振動・悪臭の防止						0.4	3.0	0.40	-	
1 騒音				独自		-	3.0	1.00	-	
2 振動				独自		-	-	-	-	
3 悪臭						-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制						0.4	1.9	0.40	-	
1 風害の抑制						-	1.0	0.70	-	
2 砂塵の抑制						-	3.0	-	-	
3 日照阻害の抑制						-	4.0	0.30	-	
3.3 光害の抑制						0.2	3.7	0.20	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策						-	4.0	0.70	-	
2 星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策						-	3.0	0.30	-	

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

津須市役所 西館

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点		全体に対する 重み係数	重点項目スコア	
① 地球温暖化対策					4.4	
LR3-1	地球温暖化への配慮	4.4	0.10		3.8	
② 資源の有効活用						
Q2-2	耐震性・信頼性	3.9	0.09			
Q2-3	対応性・更新性	3.6	0.09			
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	4.0	0.19			
③ 敷地内の緑化					1.0	
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09	外構緑化:0%/建物緑化:0%		
④ 地域材の活用		(評価ポイント)			1.0	
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし		
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし		

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

環境設計の配慮事項

■建物名称 清須市役所 西館

計画上の配慮事項	
総合	注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。 清須市役所西館は独立した棟で考えた時にZEB Readyの環境に配慮した建物とすると同時に高断熱、高い天井高の執務空間とするなど、高い室内環境性の両立を目指した。
Q1 室内環境	注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 床や天井に吸音製の高い建材を使用し、円滑な窓口対応ができるように配慮した。 建物には庇となるバルコニーを計画し、執務中の屋光のグレア対策を考慮している。
Q2 サービス性能	注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 執務室の天井高は2.8mを確保し、閉塞感を感じないよう配慮。 1階に食堂を計画し、自動販売機などを設置し職員の休憩場所としても利用。
Q3 室外環境(敷地内)	注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 清須市役所西館は既設建物への増築であり、既設建物のコンセプト(色調や新川の水の流れをイメージした目隠し壁の開口デザイン等)を踏襲しつつ、清須市役所としての一体感を目指した。
LR1 エネルギー	注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 西館単体で考えた時、BEI$\leq$0.5となる設備計画を行い、消費エネルギーの低減を目指した。
LR2 資源・マテリアル	注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 躯体の一部にリサイクル材(高炉セメントB種)を利用するなど、リサイクル材の有効利用に配慮した。
LR3 敷地外環境	注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 清須市役所西館は西側道路から極力離隔を取り、日影の周辺への影響低減を目指した。
その他	注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取り組みがあれば、ここに記載してください。